

第18号 1999年9月

発行

神戸市建築協定地区連絡協議会
神戸市中央区加納町6丁目5番1号
神戸市住宅局建築部住宅環境課内
電話 (078) 322-5610

企画・制作／㈱アドゲイン

建築協定だより・神戸

カーネーション 色とりどりの葉色をとり入れ 魅力あふれる庭園づくり

ニュージーランド クライストチャーチ 第十回総会記念講演から



米田一郎講師

七月三一日(土)に開催された第十回神戸市建築協定地区連絡協議会総会の記念講演として、グリーンアドバイザー(元神戸市立緑の相談所長)の米田一郎先生に「ニュージーランドガーデン自慢の人々」を題して講演をしていただきました。葉色の美しい樹と草花で、魅力あふれた庭園づくりに取り組む、クライストチャーチの人々の熱意が伝わってくる講演でした。本号ではこの講演の概要を米田先生の執筆によつてご紹介します。

クラリストチャーチはニュージーランド南島最大の都市で、人口三十三万人の都市です。この都市はガーデンシティを提唱しています。提唱のとおり緑に包まれ、市のほぼ中心に一八〇haのハグレー公園があり、園内は植物園や博物館、スポーツ施設等が整備されています。このハグレー公園や市街地の中

街路からよく見える前庭
芝生をメインに外周を草花壇、コニファーでアクセント

○五〇cm程の高さにレンガを積んだり、低い花壇用の木柵などで仕切つてあるので、どのガーデンも街路からよく見えます。広々とした前庭に芝生を植え、周囲をコニファーや草花で見事なガーデンを作り上げています。

隣との境界処理も見事で、前庭部分が隣接している處は草花を使い、花壇形式で協同植栽され、一体化しているので切れ間がなく、大きな花壇の中に住宅が点在するように見えます。このよう見えるもう一つの要因は、住宅と歩道の境に幅五〇cm程を花壇にして、その手入れを各戸で担当しています。

この街の人たちは樹木の葉色を、上手に花壇に取り入れています。例えばコニファーの濃緑色葉のヒノキ科のグリーン・コンの列植の中に黄金ヒバや黄金グミと言った黄金葉樹を混ぜたり、黒色に近い葉色のベニスモモと黄金マサキやハイビヤクシンなどを配植し、その根元に花壇用のベゴニヤなど草花を植えています。実に気持ちの良い、色調の植栽です。大量に草花を使うよ

り、樹木の色調にあわせて草花を使うことで、相乗効果を上げているのには感心させられました。

このようなガーデニングは隣、近所と仲良く生活をし助け合いと協調により、生みだされたものだと観察しました。日本の住宅地と異なる点はあります、地域のコミュニケーションのよさと、ガーデニング技術の高さ、そして何よりも花壇づくりにかける熱意の強さを学んでいきたいと思つた次第です。

エイボン川に並ぶ浮き花壇
この間を、ゴンドラがとおる

わがまち探訪

海を望める静かな山の手

御影山手四丁目東南地区(東灘区)



海と山を見渡せる静かな住環境

阪急御影駅の北西、閑静な住宅街の一角に御影山手四丁目東南地区が広がります。六甲山を背景に、落ち着いた雰囲気が漂うこの街から、神戸の街や海が一望でき、まさに心安らぐ住環境。

その街で建築協定が結ばれたのは平成六年五月二六日のことでした。地区内でワンルームマンションの計画が持ち上がり、それを聞いた住民がこぞって反対。建築協定への関心が高まつたのです。とはいっても、なりと事が運んだわけではありません。「建築協定を結ぶと、自分の財産を自分でしばつてしまふことになる」という声も多く、そこで一軒一軒を訪問して建築協定のメリットを説明。環境を守るために地域全体で取り組もうと、半年以上かけ賛同を得ていきました。そうして結ばれた協定は、「一区画一戸建の専用住宅または医院併用住宅とする」「マンション、アパート等の集合住宅の建設は認めない」「階数は、地階をのぞき二以下とする」といった内容。もちろん誰もが守り、素晴らしい環境が保たれています。

今後の課題は更新にむけての準備。とくに世帯主のほとんどが六五歳を越えており、更新時には息子・娘の代になつていることも考えられるところから、どうやって引き継いでいくかが悩みです。「環境を守るため、



街全体にゆったりとした時間が流れる

街並みおしゃれアイデア

温もりある白熱灯、涼しげな蛍光灯

エクステリアの照明は、防犯上欠かせないものであるとともに、庭に広がりをもたせ、室内を実際以上に開放的に見せたり、ムードを盛り上げるなどさまざまな効果があります。上手に演出するには、光の性質を知り、場所・目的にあつた光源を選択することが大切です。

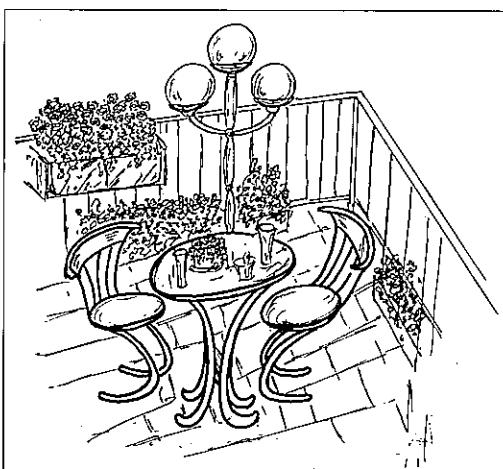
光源は大別すると、白熱灯と蛍光灯の二つがあります。白熱灯は赤黄色の暖かな光で安らぎを与え、ムードを演出するには、立体感をつけること

上向きに当たり、壁面にライトを植え込みの中からスポットライトを

ライティングのポイントは、光と影をいかして立体感をつけること。

ドづくりにぴたり。逆に蛍光灯は清涼感があり、影のない均一な光を放ちます。高い所から地面まで広範囲を照らすには蛍光灯、立体感や温気の効果を出すには白熱灯が最適。最近は蛍光灯にも白熱灯の光色タイプがありますから、経済性を優先させてこれを利用するのも手です。なおエクステリアの照明は、防湿・防水タイプを選ぶことを忘れないでください。

クリスマスには点滅するデコレーションライトを樹やバルコニーにからませ、夏はユニークな形の石をライトアップして爽やかさを演出するなど、季節で照明を替えると楽しみが広がります。



バルコニーをライトアップ

新しく認可された地区の紹介

平成十一年四月一日以降、新しく認可された地区は次の三地区です。市内の建築協定地区数はこれで八四地区となりました。(平成十一年九月十七日現在)

○松が枝町地区
(北区・五四八区画)

平成十一年四月七日認可

○観音荘地区(東灘区・十八区画)

平成十一年六月十四日認可

○西神南(十)団地地区

(西区・五六区画)

平成十一年七月七日認可

クロスさせるだけでも多彩な表情が生まれます。また、アプローチに埋め込み式や下から照らすフットライトをセットすると、足元が安全だけでなく、暖かく人を出迎える雰囲気に。バルコニーにはプランターのグリーンに小さな光を当てたり、デッキチェアの傍らにスタンダードライトを置くとロマンティックです。

Q & A

今回はさる七月三日(土)に行われました当協議会主催の研修会において質問のあった運営上の問題をもとに取り上げさせていただきます。

質問

建築協定の運営委員会の役員は自治会役員との兼任でよいのでしょうか。

回答

運営委員会と自治会とは、その趣旨が異なるので、別に組織する必要があります。便宜的に両方の役員を兼任されること自体は問題ではありませんが、自治会役員であっても、協定に入っていない方は運営委員会役員となれないことなどに留意する必要があると思われます。

質問

建築協定運営委員会独自の会費を徴収したほうが、よいのでしょうか。

回答

先の回答にもあるとおり、自治会とは別組織ですので、会計も別にする必要があります。協定運営上の大きな支出は、更新時の登記簿等の取得手数料等ですが、更新時に臨時で徴収する方法がありますし、また毎年、自治会の了解のもと、自治会から補助金をもつて積み立てている地区もあります。ただ、日常的な広報、啓発活動を充実させていくために

は協定参加者の理解を得て、少額であつても、会費を徴収し、運営委員会としても財政基盤を整えておくことが望ましいと言えるでしょう。

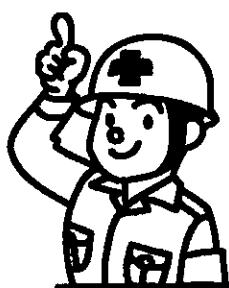
質問

地区内の新たな建築計画が、協定内容を守っているかどうか、どのように確認すればよいのでしょうか。市で検査を行つても見えないでしょうか。

回答

協定内容に合致した計画であるかどうかの確認の時期と方法は、①建築確認申請に先立つて設計図面で、②基礎工事の際など施工途中に現場で、③建物完成後に現場で……の三回あります。工事完了届にもとづき、市が行う検査は確認申請書に合致しているかどうかであり、協定内容のチェックまでは行えません。

また、すべての建物について市に工事完了届が出されている訳ではないので、ご面倒でも、運営委員会でチェックを行つていただく必要があります。



インフォメーション

山麓リボンの道で、 神戸の歴史・自然を 満喫しませんか?

東灘区から垂水区までの市街地の山麓部を通る散策コース「山麓リボンの道」

を存知ですか。歴史スポットなどをリボンを結ぶよう

にルートが設定され、四季

折々の自然を楽しみながら

リフレッシュできます。こ

のほど、その詳しいルートや魅力を

紹介したA5判サイズのパンフレットが発行されました。いま、各区役所まちづくり推進課まちづくりセ

ンター・アーバンデザイン室で希望

者に無料で配布されています。

またこれにあわせて、十月一七日

(日)まで「山麓リボンの道」ウォーク

クラリーが開催中。ルート上の約一

三〇本の道標のうち五〇本に貼つて

あるキーワードを見つけてハガキで

送れば認定証がもらえます。ぜひチャレンジしてみては?

（問合せ先）

神戸市都市計画局 アーバンデザイン室 〒650-7813-3321-15543

日本百景 吹屋（岡山県） ベンガラが描く 温かな町並み



ベンガラ色に染まる郷愁の町

編集後記

タイトルは『安全で安心なコミュニティ活動の手引き』。サイズはA4判五四ページ。内容は、「コミュニティ安全マップ作成の手引き」「コミュニティ安全活動実施の手引き」の三章からなり、まちの中の危険箇所や災害時に役立つ資源をマップに落とし込む方法などが具体的に紹介されています。この手引きを参考に、皆さんの地域でも安全なまちづくりに取り組んでみて下さい。

「安全で安心なコミュニティ活動の手引き」が完成

神戸市では、行政はもちろん、地域の皆さんで力をあわせて安全で安心なまちづくりを取り組んでもらおうと、そのノウハウをわかりやすく解説した手引書が作成されました。

成羽の市街地から北へ約十五km、中国山地の真っ只中に、突然見事な町並みが現れます。ここがかつて銅山とベンガラで栄えた「吹屋」の町。約一・五kmにわたって続く美しい町並みは、平入り、妻入りなど様々な建築様式が入り交じり、さながら博物館のよう。屋根は石見瓦の赤褐色、格子や木部はベンガラで塗られ、壁にまでベンガラを混ぜたものがあり、町じゅうが温かな赤色で包まれています。

そのベンガラは銅山衰退の賜物として生まれました。鉱脈を掘り尽くした後はさびれていく町が多い中、

レジャーシーズンの到来です。ショッピングに、観光に、国内外へ出かけの方も多いと思います。そこで素晴らしい街や人に出会うと、宝物をもらったような気分になります。私たちが住んでいる街も、そんな心温まる場所でありたいのですね。

みなさんの町への思い、悩みをこの誌面にも反映させていただきたいと思います。ぜひご意見をお寄せ下さい。

吹屋では銅を取った廃石から上質のベンガラを作ることに成功。ますます繁栄していきました。

今も当時の面影をたどるのは、昭和四九年に岡山県の「ふるさと村」に指定され以来始まった町並み保存運動のおかげ。昭和五二年に重要な伝統的建造物群保存地区に選ばれてからは伝統的建物の多くが修復され、風情ある町並みが保たれています。

※ベンガラ：漆器、染色、木部の塗装等に使われる赤色顔料。